

# 新山協ニュース

▲ 発行者 鈴木敏雄 ▲ 発行所 新潟県山岳協会  
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男 TEL 0258-32-0428

## 年頭に当って

会長 室賀輝男

昭和57年を迎えるにあたり、直させ、大きな警鐘を与えま  
心から新春のお慶びを申し上げました。登山に於いても嘗てな  
げます。い冬山の大量遭難で、長期間

も安全登山の鉄則が守られ、  
中国を始め海外の山で立派な  
足跡を残し、又厳しい団体登  
山でし輝かしい活躍があり、  
ドンドン若人が育って居る事  
は力強い限りです。  
然し、近年全国的な傾向で  
ある、未組織登山者の増加、  
若者の山岳会からの組織ばな  
れは誠に遺憾であります。山  
の事故が集中するのもこの層  
であります。易きに流れるグ  
ループ山行が増加し、山だけ  
に熱中する者よりも他の趣味  
のかたわら登山もやる者が増  
加している今日、山岳会の組  
織を固める事は骨の折れ  
る事でありませぬ。指導者とし  
て一時も気をゆるめられない  
ところでありませぬ、非常に  
良く完成された人を私達は人  
物と云う表現をしています。  
あの人は人物だ、大人物だな  
どと云われます。その人間は  
一朝一夕に出来るものではあ  
りませぬ。一日一日の善行の  
積み重ねで人間が錬成され、  
完成されて行くものです。骨  
の折れることです。立派

## 謹賀新年

新潟県山岳協会

会長 室賀輝男  
副会長 望月力

理事 小林兼一郎  
上村幹雄  
鈴木敏雄  
他役員一同

理と力の偉大さを改めて思  
現代人にとっては、自然の原  
災害は、物質文明に陶酔した  
特に地這り、雪崩による天然  
及ぼした影響は図り知れず、  
於ける豪雪は、経済、社会に  
ことに県内に於いては年初に  
ご苦労が多かったと思います。  
難の年であり、皆さんも夫々  
憶えば昨年は国内外共に多  
億えれば昨年国内外共に多  
の搜索で地元を始め各方面に  
多大の迷惑をかけた。又  
ヒマラヤを始め海外登山で未  
曾有の遭難を連発し、社会の  
批判を浴び、登山者も散々な  
一年でした。世論は遭難の原  
因が豪雪によるものでなく、  
雪の多いことは冬山の通常の  
因であり、冬山の原則を守ら  
ない初歩的なものである。又  
経済大国を背景にド  
ンドン送り出される  
登山者は、指導者を  
持たないグループ登  
山隊であり、高度順  
化の時間も持たず、  
天候や雪崩の判断も  
つかない勉強不足の  
なれの果てと厳しく  
批判を加えている。  
これはある程度当  
得なものと思えます。

昨年遭難の続発した同じ時  
期に、厳冬の飯豊連峰や谷川  
岳、北アルプス等へ多くの仲  
間が入山致しましたが、夫々  
の山岳会が立派に行動され、  
困難なルート計画通り踏破  
し、又は積雪、天候を適格に  
判断し、計画を変更し、全員  
無事故で下山された事はその  
実力を大きく評価し、賞讃に  
値いたします。その後は夏山で

な山岳会もこのようにしてつ  
くられるものと思います。吾  
が新潟県は谷川岳から東へ越  
後山脈は群馬、福島に境して  
奥只見に至り、更に飯豊山か  
ら庄内の山をへて連り、又谷  
川岳から西へのびた三国山脈  
は長野と境し、妙高山に達し  
富山の県境で白馬岳と接して  
いる。その間に名山がキラ星  
の如くに存在し、念珠ヶ関か  
ら親不知まで三百軒は、親不  
知から米原までの里程に等し  
い。新潟県はゆうに富山、石  
川、福井の北陸三県に匹敵す  
る規模を持つ。加えて四十九  
里荒波を越えて佐渡がある。  
立派な名山、自然に恵まれ、  
四季折々の変化があり、美し  
さがあり、厳しさを持っている。  
その自然の中で育った吾  
々には素晴らしい素質があり  
力がある。日本一の山岳県に  
なっても不思議がない。近代  
登山の草分け高頭仁兵衛先生  
を頂点として、藤島先生を始  
め大先輩の築かれた立派な伝  
統と組織がある。吾々は力を  
併せてこの歴史を守り、育て

て行く責務がある。今年の正  
月も多くの仲間達が厳しい冬  
山に向っている。たのもし  
限りです。山を人生の道場と  
して夫々が立派な山岳会の下  
で、何ものにも負けないたく

ましい実力を養成し、社会で  
も家庭でも有用な人間に大き  
く成長され、安全でたのしい  
登山活動をされることを、年  
頭に当り心から希うものです。

この二条件を如何に満足せ  
しめて、チームの計画所要時  
間を設定するかが難問。大会  
の雰囲気の中で、思わぬ力量  
を発揮し、新記録を出すこと  
があることと、他のチームの  
力量をも勘案して設定しなけ  
ればならぬので、苦労した。

### 第36回国体報告

少年男子監督 帯 刀 勤

競技会場の比良山系は武奈  
ヶ岳(1214米)を最高峰

小柄にみえた。

種目別成績

イ、縦走競技(三日間)

合計得点 199・20

順位 第4位

得点 60・74

順位 第11位

総合成績

総合得点 259・94

順位 第6位

以上のような成績でした。

踏査競技の不振がなければ、  
と今になって悔んでいます

念願だった6位入賞が果せて  
喜びも、また格別です。

◎縦走競技について

次の二条件を、いかに満た

し、減点を少なくし、入賞す  
るか、の策を立てねばならな  
い。難問であった。

特区间Aのスタートから  
特区间Bのゴールまでの所  
要時間をあらかじめ計算し  
て、申告しておくのです。

又、特区间のゴール近くで  
各チームがダンゴ状態となり  
追い抜けず、タイム・ロスを生  
み、結果減点される恐れも  
あることを考慮すると、ます  
ます難しい。さりとてマイ・  
ペースではまずいし。僅かな  
減点が順位を逆点させ兼ねな  
いので慎重にならざるを得な  
い。

具体例、縦走第2日目のご  
ときは、計画所要時間を、20  
分余り短縮してしまった。4  
点減点である。結果は得点6  
8・70点で第5位であった。

4位は72・70点で、4点  
差でしかないのだった。だか  
らこの減点4点は惜しかった。  
だが気力のすばらしさを見せ  
つけられた一日であった。

そこで、縦走第三日目には、

計画所要時間

特区间A・スタート

特区间A・ゴール

休憩時間(区間)

特区间B・スタート

特区间B・ゴール

呼画(縦走) 呼画(縦走) 呼画(縦走)

口、規定時間

各特区间ごとに、その区  
間で最も所要時間の短いチ  
ームの所要時間を規定時間  
とする。つまり最も早いチ  
ームが満点と言うのである。

口、規定時間

各特区间ごとに、その区  
間で最も所要時間の短いチ  
ームの所要時間を規定時間  
とする。つまり最も早いチ  
ームが満点と言うのである。

気力を計算に入れ、予定の計画所要時間を15分短縮して申告し、成功。減点なし、得点71・80で、この日の4位に入った。

縦走種目で総合4位に入ったのは三日目の得点が大きくものを言ったからである。

◎踏査競技について

競技開始第二日目に行なわれた。前日の滋賀県チームのすばらしい縦走のスピードに刺激されたせいか、各県とも

すごい力量を発揮した。それに比べて、わがチームはマイペースにすぎた感がある。その上、現地調査の折に日時と費用の関係で一部山道を調査できず、一沫の不安を残して帰って来た。その山道が踏査

コースに繰り入れられていたので、タイム・ロスを生み、時間点がかせげず、得点、60・74で、順位は11位であった。

だが4位以下の得点差が僅少なので、明日に期待をつないだ。

4位 得点 69・19

6位 得点 63・39  
11位 " 60・74

地理地形の不案内の山道についての情報は、長野、静岡(女子)の監督の好意で詳細に知ることができたのである

が、実地に選手の日と足で確かめさせるべきであったと悔んでいる次第。現地調査は回数が多い程良いし、方法は長野県選手団のように合同合宿方式が参考になると考える。

◎トレーニングについて

5月に監督の委嘱を受けてまず考慮したことは、

一、いかに選手に故障をおこさず大会に出場させるか。

二、いかに「代表選手である」ことを自覚させ、意識を持続させるか。

の二事であった。

過重な担荷訓練で、足や膝を痛め、山好きな生徒を、生涯山登りから遠ざけるような結果になっては悔いするものがあるからであり、高校二年生では、まだまだ成長期であり、痛める度も多い。「県代表」

との意識も、同学校、同学年

であり、主たる訓練の場が、クラブ活動の場と同じでは、クラブ活動の延長の気分が抜

けず、持続させ難いのである。

〇担荷訓練  
15Kg、6Kmのランニングと決めて実施、夏休みに入って、時折り20Kg担荷させてみた。

〇山行回数  
15Kgの担荷で、五頭・二王子をホームグラウンドにして、時に気分一新をはかり、遠く尾瀬沼のほとり燧岳に登り、夏期合宿と合せて飯豊連峰へと山行を実行した。

〇合同強化訓練  
① 7月18・19日、粟ヶ岳でインターハイ出場校、六日町高校、三条東高校と、北信越国体出場チーム、女子、新潟中央高校、新発田高校の4高校チームで行ない、踏査競技をはじめ生活技術についてま

で、いろいろと指導を受けるとともに、県代表選手であるとの意識も高揚させることができた。

② 飯綱山高原で8月7・8・9日と北信越国体出場の新

潟中央高校チームと現地の地形・地理に合った強力な指導を、小林(光)、笠原、安野先生から受け、大会に向けて

気力を高め、自信を深めた。

又幕宮競技用の特殊なピンペグ(新発田商工高校の佐藤先生に作成依頼したもの)の使用感度も良好であった。

北信越大会当日は、会長はじめ、藤井、杉本先生らの御声援、激励を得て競技に臨み、総合1位、長野を押えての1位、感慨無量であった。

③ 滋賀国体への強化訓練  
授業を欠くことの少ない日

程でと考え、文化祭前後を選

び、9月18日、21日の4日間、現地調査と訓練を計画した。

17日夜、急行「きたぐに」

で出発、大会の日程に合わせて調査することとして、安野先生に現地指導をお願いした。

睡眠不足の弱音もはず、ただちに、タクシーを飛ばして登山口へ、雨中の縦走、濡れ

ねずみとなって、駅前旅館へ駆けこんだり、他県のチームに出合ったり、顔み知りの長

野原チームと夜懇親会を催したり、苦楽もあったが、まずは一応、地形・地理を、選手

の目と足とで確かめることができた(だが先きに踏査競技の

ところで書いた不安な地点が、最後まで気がかりだった)。

歩行計画書の原案作成の記録もとれ、踏査競技会場の道

路、地形観察も景観も知り得たことは、現地調査の成果である。

以上、雑駁な報告ですが、細目にわたって反省整理いたしておりませんので、御容赦

ください。

国体6位入賞できましたこととは、会長はじめ、多くの方

々の物心両面の御支援のおかげと存じ、筆をおくにあたり、厚く御礼申し上げます。

追記

全県高校登山部の御声援、顧問の方々より多額のカン

パなど頂きましたこと、ここに厚くお礼申し上げます。

## 第36回滋賀国体

## びわこの底深く

成年男子監督 片桐一夫

昭和56年10月13日より18日まで、びわこ国体に県代表として関係各位の支援をいただき参加してまいりました。

選手監督とも事故なく持てる力を出しきって戦って来ましたが、御報告とともに御礼申し上げます。

大変ありがとうございました。しかしながら成績については全くはざかしい一言につき、何と言われても反論出来るものではありません。

これらの結果を御報告するとともに今後の対するとりくみ方についての私の考え方を述べさせていただきます。

10月12日午後1時より志賀町民体育館において監督会議がありました。この席で山岳競技審判長からの公平にやります。ミスはないと確信しております。の発言にもかかわらず、幾つかの疑問点も考

られました。得点種目に移行して2回目の国体であり、大会が開催される毎にルールが少しづつ変わっており、運営する側も各県より参加する側もすばやく順応し、しかもルールに対して柔軟に対応出来る体勢でいたいと思います。

しかし過渡期である山岳競技はしばらくこの状態が続くものと思われまます。この時期に早く山岳協としての考え方、体形を整えたところが山岳競技をリード出来るのではないのでしょうか。

我々新潟県チームは成年男子Aグループで競技に入りまして、二日目縦走T<sub>2</sub>、三日目に踏査S<sub>1</sub>、最終日に登はんRの順に進行しました。

縦走競技について  
時間点50点、技術点50点であり、時間点については特区

間2個所の所要時間になりまします。時間のルールについて書きますと、規定時間、制限時間、打切時間、とあり規定時間内に通過出来ればその特区では満点ともらえます。制限時間内に通過出来ればその長さにより幾らかの得点がもらえます。しかし制限時間を超えるとその特区での時間点は0点となります。さらに時間がかかり、打切時間をも超えてしまうと、その日の競技得点は0点となり失格と同様です。我々チームでは縦走二日間、それぞれの特区A・Bとも4箇所、規定時間では通過出来ませんでした。二日目の特区Bでは制限時間も超えてしま

まい、二日目特区Bの配点である25点は1点すらとれなかったことになりました。ここでそれぞれの規定時間についてのデータを記しますと、一日目特区Aは距離2360M、高さ576M、傾斜13度30分、規定時間は45分あります。ここでは時速3・15Kmで歩けば30点の満点が

とれます。同様に特区Bは距離2000M、高さ134M、傾斜4度、規定時間は25分で20点の満点をとるには時速4・8Kmの早さが必要です。我々チームは時速4Km位でした。二日目の特区Aは距離2000M、高さ314M、傾斜9度で規定時間は25分、時速4・8Kmの早さが必要になります。ここでは我々チームのスピードは時速3Kmでした。

特区Bについては4個所のなかで最も距離が長く3280M、高さ258M、傾斜4度30分で規定時間で通過するには時速5・62Kmを必要とします。ここでは前にも書いた通り、制限時間も超えています。以上の結果により、縦走二日間とも50点満点のところ10点前後くらいしか得点出来なかったと思われまます。技術点については項目別得点が一切発表されませんでしたのでわかりませんが5項目中、歩行については歩行計画書を提出してその時間通りに歩いたかどうかで決められま

すが、5分遅れ程度で歩きましたのでそこそこの得点はしていると思えます。幕営については、大会側で用意したテントを3分で設営、2分で徹収の競技ですが、競技地の地面が全くカタいところでベグと木づちで打っても入らない状態でした。あるチームでは割り当てのテントが競技開始で開いてみたところ四隅がロボロボに切れており、競技不可能な状態でした。この件は表面に出ませんでしたので問題になりませんでした。審判長の発言からいうと大問題になると思います。やはり競技開始前に割当テントを点検させるべきだと思えます。装備では指定された装備品携行の有無で、一日目、二日目ともそれぞれ5品目ずつチェックされるだけです。別問題はありません。計画書の審査は、定められた様式の計画書に、必要な規定項目を記載するだけです。最後の天気図

はありまません。最後の天気図も、作図力、読解力(予報)

があれば良いですから、とり上げる必要もないものです。縦走競技での結論といたしまして、特区間を20kg付けて走り登るパワーが必要で第一条件で最大条件となります。この差がほとんど縦走競技での得点差になると言っても良いでしょう。大会運営側への要望としては中項目の得点を発表していただきたいと思えます。

次に、踏査競技では、会場に速報板があり、踏査得点、時間得点と所要時間も発表され、実にわかりやすく、選手がゴールすると順次発表されておりました。また、選手の間通過でも実況放送がありサービス満点、非のつけどころがありませんでした。所要時間50点、踏査50点の点数配分ですが、コース中、登りと同じだけ下りもあるため、登りで遅れても下りで取りもどすことが出来、ルートを3回間違ったにもかかわらず、時間点を39点程得ています。踏査点ではAグループで2番目に良い43点を得ることが出来ました。

踏査競技の結論としては、S<sub>1</sub>コースで、規定時間130分を飲まず、食わずで20kg背に走るものだから山岳負荷マラソンのようなものです。コース途中のチェックポイントにジュースサービス位、あっても良いような気がします。最後に、登攀競技では、大会二週間前に強化トレーニング中、選手の山本君に左足骨折のアクシデントが発生し、本人の出場不可能、代理の選手を用意したもの、付け焼刃的トレーニングではやはり通用しなかったということが結論になります。

今大会登攀競技では規定時間15分、登りの打切時間20分、ゴールまでの打切時間30分の規則で高さ40M、傾斜60度を2ピッチで登り、20Mを下降するというものでした。今後のトレーニングでの参考になるかも知れませんが、今回の手順について説明します。まず次演者待期場に入り装備の重量チェックを受けます。OKだとザイル以外の装備を着装、その点検を受けた後、合図でスタート台へ移動する。

この際、フィックスロープにカラビナシュリングでビレイを取りながら移動、かけ換えの時は、片手で支点につかまっていれば良いとなっています。スタートの合図でザックをはずし、ザイルを取り出し、結び合う。中間地点まで4個所の指定されたピンにカラビナを使い、メインザイルを通す。この際、シュリングを使ってはならない。カラビナの連結は良い。中間点での確保は肩がらみ又は、グリッブビレイとする。セカンドはザイルかけ換えの際、片手で

支点をつかめば、前のザイルをはずした後、後のザイルをカラビナにかけても良いとなっていました。中間点で3人がそろい、ラストがそのまま、登攀終了点へ登ります。2ピッチ目も4個所の指定されたピンにカラビナを使い、ザイルをかけたがら登ります。セカンドが終了点へ到達し、セルフビレイを取ったら、その間のメインザイルをはずし、下降の準備をやるのも良いことになっていました。トップ

が終了点へ着き、ビレイを取ったら、ラストが下降を開始して良い。この手順は、下降用ザイルに6ミリ以上のロープ又は、15ミリ以上のテープをダブルで使用したものでブルーシック結びでメインロープに確保をとり、登攀ベルトに直結したカラビナを下降用ロープの片方に通し、肩がらみ又は、下降用器具を使って下降に入ります。3人が下降する前に一度、ザイルさばきをやり、下降した後は、一方のはじからザイルを順にまき、結んでザックに収納した後、ゴールに入る。

以上のようなものですが参加46都道府県のうち、失格が成年男子で18チーム、女子で15チーム中、7チームの失格がありましたことは、コース設定や時間設定に幾らかの問題が提起されるかも知れません。

者においてはいくら技術、体力があっても国体という場において新潟県代表選手にはすべきでないと思います。又そういう人物を送り出してはならないのです。技術については1年ないし2年間のトレーニングでかなり向上させる事が出来ると思います。なまじの技術があり、それを鼻にかけるような人物だったらいつです落すべきだと思えます。その意味でも監督は鬼であることが望ましく、女子チームでも男性の監督が良いと思えます。今大会では成年女子チーム中、女性監督は1名だけでした。選手の年令はスタミナの点、順応性などから考えて20代前半の方が良いと思えます。

県下各地域、山岳会同志のバランスを考えて県予選会の会場持ち回りはぜひ、今後とも続けていくべきだが、選手については全県のレベルで選考してもらいたいと思います。その際、内定した後、1年間は、毎日が苦しいが耐えていく意志があるかどうか確認しておくべきだと思います。

理事會報告

選考会では、内定する際、その仮定したチームがうまく協調していくかどうかよく見極めておく事も必要です。そして最後に前年出場した選手監督のうち1名位が連続して出場出来れば、より一層、好結果を生むものと感じられます。とりとめもなく思いつくままに書いてきましたが選手の

- 関川村山の会
小笠原久美子 24、佐藤浩子 22、小池由美子 22
朝路の会
近藤正子 25、安藤章子 24
菊地千夜子 26
少年男子 (12名)
新潟工業高校
齊藤 明 27、五十嵐洋義 27、阿部芳文 27
三条東高校
水野 彰 27、清水克己 27
川勝智夫 27
長岡工業高校
白井正巳 27、清水辰巳 27
笠原利之 28
新発田高校
坂上知芳 28、赤沢富士夫 28、高橋 登 28
少年女子 (6名)
三条東高校
田中真由実 27、金子美和 28、藤井秋子 28
新潟中央高校
宮崎好永 28、牧野敬子 28
大橋知弥子 28
昭和57年4~5月頃最終決定し、第3回北信越国体 (福井、経ヶ岳) 第37回島根国体へと頑張ってもらいたい。

- 三、山岳競技審判員認定講習会について
2月20日(土)~21日(日)
柏崎 担当 大倉
指導員研修会
2月21日(日) 柏崎
講師 国土地理院より予定
担当 杉原、三富、田中
苗場山小松原スキーツアー
3月27日(土)~28日(日)
宿泊 野営を中心にする。
担当 桑原、曾根
韓国或は中華民国の登山について
別記
六、昭和57年度予算について
継続審議とする。

12月6日10時30分から、長岡市けさじろ荘にて理事會が開催されました。理事、委員24名の参加を得て左記議案が審議されました。

- 一、第36回滋賀国体報告
成年男子、少年男子監督より、別記
二、第37回国体県予選會報告
並び選手選考について
11月7日~8日上越市青田難波山において予選會開催
成年男子 5チーム出場
オープン参加1チーム出場
成年女子 2チーム出場
少年男子 6チーム出場
オープン参加1チーム出場

- 一、北信越ブロック打合せ会
10月31日~11月1日 石川
室賀協会長、望月副会長、鈴木理事長、五十嵐参与、石田常務理事、杉本事務局長出席
11月24日 新潟
協会7名出席
二、遭難対策指導者研修会
11月28日~29日 東京
五十嵐遭対委員長、井口優氏、高波氏出席
北信越ブロック打合せ会
11月29日 富山
鈴木理事長出席
12月6日
別記

協会・行事・活動報告

- 三、第37回国体県予選會報告
並び選手選考について
11月7日~8日上越市青田難波山において予選會開催
成年男子 5チーム出場
オープン参加1チーム出場
成年女子 2チーム出場
少年男子 6チーム出場
オープン参加1チーム出場
成年女子 (6名)
関川村山の会
小笠原久美子 24、佐藤浩子 22、小池由美子 22
朝路の会
近藤正子 25、安藤章子 24
菊地千夜子 26
少年男子 (12名)
新潟工業高校
齊藤 明 27、五十嵐洋義 27、阿部芳文 27
三条東高校
水野 彰 27、清水克己 27
川勝智夫 27
長岡工業高校
白井正巳 27、清水辰巳 27
笠原利之 28
新発田高校
坂上知芳 28、赤沢富士夫 28、高橋 登 28
少年女子 (6名)
三条東高校
田中真由実 27、金子美和 28、藤井秋子 28
新潟中央高校
宮崎好永 28、牧野敬子 28
大橋知弥子 28
昭和57年4~5月頃最終決定し、第3回北信越国体 (福井、経ヶ岳) 第37回島根国体へと頑張ってもらいたい。

# 昭和56年度登山指導者 山岳スキー講習会のご案内

期日 昭和57年1月28日(木)  
2月1日(月)5日間

会場 文部省登山研修所  
富山県中新川郡立山町  
千寿ヶ原

〒0764-821-1211  
(実技……歙崎山周辺)

### 参加資格

ア、山岳団体の指導的立場にある者(男・女)  
イ、高等学校において登山を指導している教員(男・女)  
ウ、高等専門学校において登山を指導している教員(男・女)  
エ、大学女子山岳部の指導的

参加費用 約10500円  
(研修所食費、入山食糧購入費、リフト代金、保険料、雑費)他現地迄の交通費

申込締切 昭和57年1月5日  
協会事務局宛

立場にある者若しくは女子学生リーダー又は女子学生リーダー候補者  
オ、都道府県・市町村教育委員会事務局における登山担当者及び地域・職域において登山を指導している者(男・女)

## 昭和56年度地区別 審判員研修会開催について

期日 昭和57年2月13日(土)  
14日

会場 福井県

一、趣旨 日山協公認指導員および審判員を対象に、国体山岳競技の審査・運営に当る審判員の養成と資質の向上を計るため、山岳競技に関する諸規則及び採点の実際について研修を行う。

二、参加資格  
(1) 審判員資格認定研修会は、指導員の資格があつて、所属岳連(協会)会

長より推せんされた者  
(2) 実技研修会は、審判員の資格があつて、所属岳連(協会)会長より推せんされた者  
三、研修課目  
(1) ニー(1)については、競技審判員規程に関する内規第一条に規定する講習項目及び事例に関する研究討議  
(2) ニー(2)については本年度は、3種目の採点に関する研修を行う。

判員規程及び同内規  
(5) 山岳競技採点について  
(3) 討議とまとめ  
「実技研修会」  
(1) 山岳競技状況  
(1) 山岳競技規則の改正点について  
(2) 第36回国体の概要について  
(2) 3種目の採点研修  
(1) 縦走競技の採点  
(2) 登攀競技の採点  
(3) 踏査競技の採点  
(4) 得点の集計とまとめ  
(3) 討議とまとめ  
五、参加者の申込み  
氏名、生年月日、年令、住所(電話番号も)、指導員資格(種別、番号)、所属団体名、岳連内の役職名、国体及び同予選会参加歴等を記入の上、協会事務局宛送付のこと。

## 海外登山の ご案内

今回、韓国晶元山岳会及び中華民国山岳協会よりそれぞれ当協会員の登山について招聘する旨の書信を受けました。この地域はヒマラヤと異り、高さや魅力はおりませんが、海外登山を志す者が、海外での行動の基礎を学び、国際感覚、視野を広める適当な機会と考え、且つ両国の招聘と云う便宜もあります。その概要は次の通りですが、協会としては、参加する皆さんの希望により具体的に日程、行程等を決定し、両国との親善を兼ねて実施する予定です。参加希望者は至急事務局へご連絡下さい。

六、参加費  
参加者1名につき1500円とする。(資料費を含む)  
宿泊費 別途徴収

雪岳山及び知異山  
二月中旬の四泊五日程度  
三月中旬の五泊六日程度  
参加希望者は1月10日まで事務局へ連絡下さい。

- (2) 競技規則の購読
- ① 国民体育大会開催基準事項及び同細則
- ② 国民体育大会山岳競技開催基準事項及び同細則
- ③ 山岳競技規則
- ④ 日本山岳協会競技審判員規程及び同内規

二、韓国  
雪岳山及び知異山  
二月中旬の四泊五日程度  
三月中旬の五泊六日程度  
参加希望者は1月10日まで事務局へ連絡下さい。

その他経費について極力皆さんの希望に添えるよう計画しますので多数の参加をお待ちし

登山計画書紹介

三菱ガス化学山岳部が昨年二王子岳ノ門内岳厳冬期初縦走に成功したことは、新山協

飯豊連峰 厳冬季主稜完全縦走

三菱ガス化学山岳部

- コース及び日程
1日目 12月26日(土) 新潟-長者原
2日目 27日(日) 長者原-大ドミ
3日目 28日(月) 大ドミ-大石山
4日目 29日(火) 大石山-八差岳-頼母木
5日目 30日(水) 頼母木小屋-梅花皮小屋
6日目 31日(木) 梅花皮小屋-文平の池
7日目 1月1日(金) 文平の池-大日岳-本山小屋

るのが常識となっているが、これを1桁以内の日数を目標とする。

三、概念図 略

- 青木 興家 C・L
平松 敏彦 S・L・通信
田中 昭夫 装備
佐々木 満 会計、記録
早坂 伸二 食糧
親松 勝栄 気象、医療

五留守連絡先
○平日 三菱瓦斯化学(株)
新潟工業所内
新潟市松浜町3500

○0252-59-3111
七届出先

新潟県山岳協会

山形県小国警察署

福島県山都警察署

日本山岳協会山岳遭難共済

古谷 勲

○0252-47-4864

六、通信

①無線使用機器及び周波数

縦走隊 IC-2N(アマ)

A) HF1.5W 150mW

アマチュア無線

144MHz帯

呼出周波数 145.00MHz

②無線連絡ルート

縦走隊
平松 JAφ EPO
親松 JHφ UZN

武濁川 5344 AEH

大竹(新) 0252 JAφ

浅野(新) 0252 JAφ

③連絡時刻
19時 19時30分

④有線連絡ルート
20時

大竹 浅野

新潟県山岳協会

山形県小国警察署

福島県山都警察署

日本山岳協会山岳遭難共済

古谷 勲

以下 略

スローガン

このふれあい未来をひらく
期日 昭和57年10月3日(日)
78日(金) 6日間

会場 島根県西中国山系
会場地 瑞穂町・旭町・金城町・弥栄村・匹見町・日原町・六日市町

集結地 金城町・日原町

登攀競技場 元組 二の谷 (黒滝)

踏査競技場 金城踏査会場

六日市踏査会場

踏走競技場 西中国山系

参加人員
成年男子 各県1チーム

成年女子 北信越2チーム

少年男子 北信越1チーム

少年女子 北信越2チーム

地図 国土地理院 五万分/

日原・津和野・浜田・木都

賀・三段峡・川本・大朝

おくやみ
12月25日、越稜山岳会、加藤勝義氏(6)が三島病院でなくなりました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

あとがき
今年もニュースを愛読いただき、皆様のご指導ご鞭撻を願ひ申し上げます。